施策マネジメントシート

基本施策名	2 3 下水道の整備・維持・更新	施策統括課	下水道課	氏名	蛯谷常久
政策名	7 都市基盤	主な関係課			

1 施策の目的と指標

① 対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等

・市内全域
・分流区域

② 施策の目的

地震・集中豪雨等による災害の未然防止にも十分配慮しながら、市民の日常生活や経済活動に必要不可欠なインフラ施設として、将来にわたって適切かつ効率的な維持管理・運営を推進します。

③ 対象指標（対象の大きさを表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	市域面積	㎢
イ	分流区域面積	㎢
ウ		
エ		

④ 成果指標（意図の達成度の指標）数字は記入しない

		名称（展開方向ごとに記載）	単位
1	ア	南部地域（分流区域）における雨水管整備率	%
	イ	公共下水道管の改築・更新率	%
2	ア	未処理放流水のBOD値	mg/ℓ
	イ	雨水浸透ますの設置数（累計）	基
3	ア	下水道事業の経費回収率	%
	イ		
4	ア		
	イ		

2 第2次基本計画期間（令和2～令和9年度）内における取組内容

	施策の展開方向	目的	手段（具体的な取組内容）
1	下水道施設の維持・創出	地震・集中豪雨等による災害や、施設の老朽化等による事故発生及び機能停止のリスクの低減を図ります。	◆下水道施設に起因する事故を未然に防ぐため、日常のメンテナンスを行い、「予防保全型」の維持管理に努めます。 ◆下水道施設の安全性を確保するため、公共下水道ストックマネジメント基本計画により、計画的かつ効率的に改築・更新を推進します。 ◆ミニ開発が進行(スプロール化)している南部地域の浸水被害を防止するため、雨水管の整備を推進します。
2	良好な水環境の維持・創出	治水対策を促進するとともに、河川・水路等の公共用水域の水質向上や地下水・湧水等の保全及び再生を図ります。	◆民間事業者による開発行為等において、雨水流出抑制に関する指導を行います。 ◆雨水浸透ます助成制度の周知を推進し、雨水浸透ますの設置拡大を図ります。 ◆循環型社会の構築にも結びつくよう、処理水や汚泥等の下水道資源の積極的な活用を図ります。
3	健全な事業運営の推進	重要なライフラインとしての役割を将来にわたって発揮し続けることができるよう、下水道事業の経営基盤強化を図ります。	◆地方公営企業法の適用により透明性が高く、より効果的で効率的な事業運営の推進を図ります。 ◆持続的な下水道事業を実施していくため、下水道事業の経費回収率の向上を図るとともに歳出の抑制に努め、効率的な事業の実施を図ります。
4			

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

			単位	数値区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	目標達成度	
対象指標	ア			見込み値					8.15	8.15	8.15	8.15		
				実績値	8.15	8.15	8.15	8.15						
	イ			見込み値					0.96	0.96	0.96	0.96	達成・未達成	前年度比較
				実績値	0.96	0.96	0.96	0.96						
	ウ			見込み値										
				実績値										
	エ			見込み値										
				実績値										
成果指標	展開方向1	ア	%	成り行き値									未達成	維持
				目標値	59.0	60.0	60.7	62.0	63.5	65.0	66.5	68.0		
				実績値	56.6	57.4	57.4	57.4						
				基本計画における指標の説明又は出典元	南部地域(分流区域)における雨水管整備率 指標の説明:雨水管整備面積/分流区域面積(95.66ha)×100									
		イ	%	成り行き値									未達成	向上
				目標値	0.2	0.5	0.7	1.1	10.3	11.0	11.7	26.9		
				実績値	0.2	0.5	0.7	1.0						
				基本計画における指標の説明又は出典元	公共下水道管の改築・更新率 市場の説明:改築・更新延長/公共下水道管総延長×100									
	展開方向2	ア	mg/ℓ	成り行き値									達成	向上
				目標値	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0		
				実績値	23.0	28.0	23.0	21.0						
				基本計画における指標の説明又は出典元	放流水に含まれるBOD値 指標の説明:放流水に含まれるBOD値/放流水の総量									
		イ	基	成り行き値									未達成	向上
				目標値	19,175	20,250	21,325	22,400	23,400	24,400	25,400	26,400		
				実績値	19,052	20,198	21,334	22,254						
				基本計画における指標の説明又は出典元	雨水浸透ますの設置数(累計) 指標の説明:市の助成及び窓口指導を受けて設置された雨水浸透ますの									
	展開方向3	ア	%	成り行き値									達成	維持
				目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
				実績値	108.1	116.5	117.4	117.3						
				基本計画における指標の説明又は出典元	下水道事業の経費回収率 指標の説明:下水道使用料/汚水処理経費×100									

事務事業数				本数				5				
施策コスト 事業費 財源内訳		国庫支出金		千円				88,441				
		都道府県支出金		千円				101,240				
		地方債		千円				344,700				
		その他		千円				117,618				
		一般財源		千円				138,804				
	事業費計 (A)			千円	0	0	0	790,803	0	0	0	0
人件費	延べ業務時間			時間				20,300				
	人件費計 (B)			千円				64,757				
トータルコスト(A)+(B)				千円	0	0	0	855,560	0	0	0	0

4 施策の成果指標実績値に対する評価

(1)施策全体の成果実績目標達成度　A(高度に達成)～E(ほぼ未達成)

C:一部の成果指標について目標を達成した

(2) 時系列比較(過去3ヶ年の比較)　A(かなり向上)～E(かなり低下)

B:成果がどちらかと言えば向上した

(3)上記(1)(2)の理由・背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

・南部地域(分流区域)における雨水管整備率は、令和7年度に(仮称)国立市雨水管理総合計画を策定し、令和8年度以降に計画を基に整備を進める考えである。
・公共下水道管の改築・更新率は、国立市公共下水道ストックマネジメント計画により、令和2年度から改築・更新工事を進めており、概ね予定通りに事業が進んでいる。
・未処理放流水のBOD値は、試料採取時の降雨量により、分析結果に多少の影響は出るが、目標値をほぼ毎年度クリアしている。
・雨水浸透ますの設置数は、国立市雨水流出抑制指導要綱により、国立市まちづくり条例で規定される開発事業、建築物の新築・改築時に伴う窓口指導の他、既存住宅への浸透桝設置助成制度により設置促進を図っているが、開発事業や新築・改築数に左右される他、既存住宅の設置が進まない状況である。
・下水道事業の経費回収率は、下水道使用料により賄えている状況であり、今後も100%を超える結果となる見通しであるが、近年の下水道使用料収入の減少傾向の他、社会状況に伴う物価高騰による下水道処理費の増加など今後の経費回収率への影響が懸念される。

5　施策の現状　※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか？

・雨水管整備については、一般会計からの補助金で行っているため、市の財政状況によるところが大きい。
・国からの要請により、施設の老朽化対策を進めるために国立市公共下水道ストックマネジメント基本計画を策定した。（平成28年3月）
・国立市南部中継ポンプ場ストックマネジメント計画を策定した。（平成31年3月）
・国立市公共下水道ストックマネジメント計画を策定した。（令和元年12月）
・地方公営企業法を適用し、公営企業会計に移行した。（令和2年4月1日）
・国立市下水道プラン2020を策定した。（令和2年5月）
・国立市下水道事業経営戦略を策定した。（令和3年3月）
・令和5年度に立川単独処理区が北多摩二号処理区へ編入された。
・下水道使用料は年々減少傾向にある。節水意識の向上や節水機器の普及による影響であると推測される。

(2) この施策に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？

・議会から豪雨時の浸水対策について要望がある。
・議会から管きょの老朽化対策を国立市公共下水道ストックマネジメント計画により計画的に実施するよう要望がある。
・議会から雨水貯留浸透施設推進の要望がある。

(3) この施策に関して他自治体の取組状況と比較して国立市の取組状況はどうか？

・人口3万人以上の自治体は、令和2年4月1日付で地方公営企業法を適用し企業会計へ移行している。
・国立市は、令和2年度から公共下水道ストックマネジメント計画により改築・更新工事に着手しており、他市に比べ早い時期からの着手となることから、国立市の進捗状況は進んでいると考えられる。

(4) 施策の具体的な取組状況

5年度の取組状況	6年度の取組予定
・国立市公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、令和4年度に引き続き、第1期分の一部（658.4m）の管きょ改築工事を実施した他、令和5年度から2カ年で国立市南部中継ポンプ場の機械設備及び電気設備改築工事を進めている。 ・豪雨による浸水被害の軽減のための対策として雨水総合管理計画策定を進める方針を決定し、「雨水対策等に関する庁内検討会」を立上げ、雨水管理方針（素案）を策定した。 ・宅地内雨水浸透ます設置数向上のため、雨水浸透ます設置助成事業及び窓口指導等に努めた。 ・経費回収率を目標の100％を17．3ポイント向上させ、下水道事業の経営基盤強化を図った。（117.3％）	・国立市公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、令和5年度に引き続き、第1期分の一部（872.0m）の管きょ改築工事を実施する他、国立市南部中継ポンプ場の機械設備及び電気設備改築工事を進める。 ・令和5年度に策定した雨水管理方針を基に雨水総合管理計画を策定する。 ・南部中継ポンプ場への流入量を把握し、効果的な対策を講じるため雨天時侵入水調査を実施する。 ・宅地内雨水浸透ます設置数向上のため、雨水浸透ます設置助成事業及び窓口指導等に努める。 ・経費回収率（100％）を維持し、下水道事業の経営基盤強化を図る。

６　5年度の評価結果　※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括（成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等）※基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する（目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か）

○成果実績
〈展開方向1：下水道施設の維持・創出〉 ・浸水対策に伴い、雨水対策等に関する庁内検討会を立ち上げ、雨水管理方針を策定した。 ・国立市公共下水道ストックマネジメント計画により、令和5年度に計画されていた管きょの改築を行った他、南部中英ポンプ場の機械設備及び電気設備の改築工事を進め、施設の老朽化対策を図った。 〈展開方向2：良好な水環境の維持・創出〉 ・令和5年度の未処理放流水の調査の結果BOD値が21．0mg/ℓであり目標値を達成し、河川の水質を保全を図った。 ・窓口指導により、雨水浸透ますを920基設置され治水対策の他、湧水の保全を図った。 〈展開方向3〉 ・経費回収率は、目標値の100％を17．3ポイント上回る結果となり、目標を達成した。
○改善余地のある事項・課題等
・雨水管整備は、道路環境変化により、当初計画していた工事費を大きく上回ることから、国の補助金も含め財源確保が必要である。 ・浸水対策については、令和6年度に雨水管理総合計画を策定し、計画的に事業を進める必要がある。 ・雨水浸透ます設置助成金制度は、平成28年度から毎年度の設置数が0～1基であることから、助成金制度のPRの強化を行い、市民への周知を図る。また、助成制度の見直しや制度の必要性について検討を行う必要がある。

(2) 施策の5年度における総合評価

C	成果実績数値の評価（A～E）に、4(3)及び6(1)の定性的要素を加味した評価 A:目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。 B:一定の成果を挙げているが、向上・改善の余地がある。 C:成果向上のため、一層の努力が求められる。 D:成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。 E:現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。

７　施策の課題・今後の方向性　※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1)7年度の取組方針

・国立市公共下水道ストックマネジメント計画により、第2期分の改築工事を進める他、第3期分の管路内調査を実施する。
・雨水浸透ます設置向上のため、引き続き窓口指導を徹底する他、助成制度のPRに努める。
・経費回収率（100％）の維持に努める。
・雨水総合管理計画に基づき、分流区域の雨水管未整備地域の設計を進める。

(2)中期的な取組方針（概ね実施計画期間を想定）

・国立市公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、効率的かつ計画的に公共下水道施設の改築・更新及の他、下水道施設の維持管理を推進する。
・雨水管理総合計画により、雨水貯留浸透施設の設置などにより、効率的・効果的な浸水対策を進める他、分流区域の雨水管整備を計画的に進める。